プラスチック汚染対策の取組

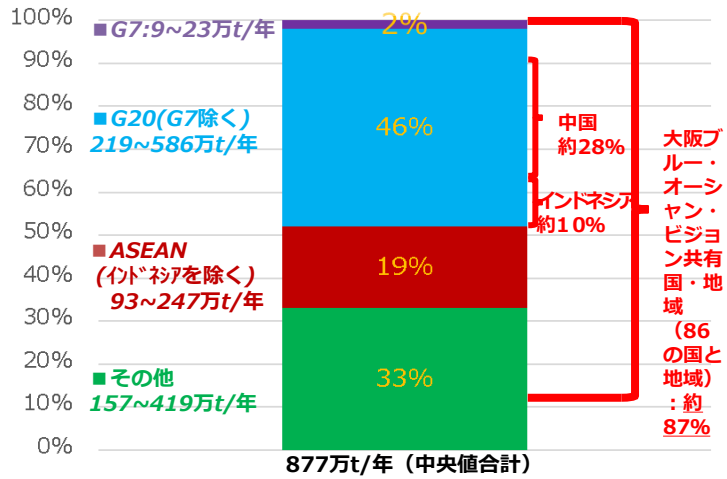
プラスチックごみ流出量の現状

＜国別流出量（2010年推計値）＞

★は大阪ブルー・オーシャン・ビジョン共有国・地域

★	１位	中国	１３２～３５３万 トン / 年
★	２位	インドネシア	４８～１２９万 トン / 年
★	３位	フィリピン	２８～７５万 トン / 年
★	４位	ベトナム	２８～７３万 トン / 年
★	５位	スリランカ	２４～６４万 トン / 年
★	６位	タイ	１５～４１万 トン / 年
★	７位	エジプト	１５～３９万 トン / 年
★	８位	マレーシア	１４～３７万 トン / 年
	９位	ナイジェリア	１３～３４万 トン / 年
★	10位	バングラデッシュ	１２～３１万 トン / 年
		⋮	
★	20位	アメリカ	４～１１万 トン / 年
		⋮	
★	30位	日本	２～６万 トン / 年
	合計		478～1275万トン / 年

＜国別流出割合＞



※割合は流出量（推計）の中央値で計算（2010年）

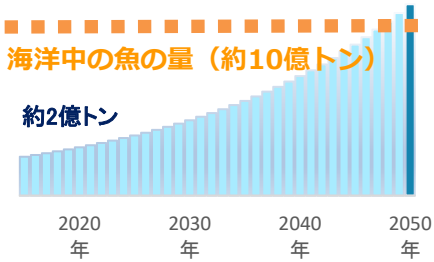
（出典）Jambeckら：Plastic waste inputs from land into the ocean, Science (2015)

※大阪ブルー・オーシャン・ビジョン共有国・地域の割合は、共有国・地域の拡大に伴い約48%（G20合計）から約87%に増加。

※国際的に一致した統計は存在しない。

＜海洋中の累積量＞

このまま海洋へのプラスチックの流出が続くと、2050年には、海洋へのプラスチックの流出の累積量が海洋中の魚の量より多くなるとの試算も。



※推計に用いられた仮定

●プラスチックの生産量が、毎年5%増加

●生産量（2015年は3.22億トン）の約3%が海に流出

2019年G20大阪サミット：「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の提唱

●世界共通のビジョンとして、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的汚染をゼロにすることを目指す「**大阪ブルー・オーシャン・ビジョン**」を日本が提唱し、共有（現在87か国・地域が共有）。

●ビジョン実現に向け、日本は途上国の廃棄物管理に関する能力構築・インフラ整備等を支援していく旨、**安倍総理がサミットで表明**。**「マリーン・イニシアティブ」**（①廃棄物管理、②海洋ごみの回収、③イノベーションの推進、④途上国の能力強化を支援）の下で2025年までの廃棄物管理人材1万人の育成を約束（現時点で17,000人以上を育成（※研修を含む）。）

➡ 2023年の**G7広島サミット**では、同ビジョンも踏まえ、**2040年までに追加的なプラスチック汚染をゼロにする野心を持って、プラスチック汚染を終わらせる**ことへのコミットを確認。

2022年国連環境総会：条約交渉開始の決定

●社会でのプラスチックの重要な役割を認識しつつ、各国の状況を考慮した上で包括的なライフサイクルアプローチで対処する条約を作るための**政府間交渉委員会（INC）を設立**し、**2024年末までに作業完了を目指す旨の決議を採択**。

（参考：**骨太の方針2023**）日本の技術を活用し、**2040 年までの追加的プラスチック汚染ゼロとの野心の達成**に向けて**多数国による条約の策定交渉等（注）を主導**する。

（注）条約交渉開始の議論にも貢献した2019年G20大阪サミットで提唱された「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現を含む。